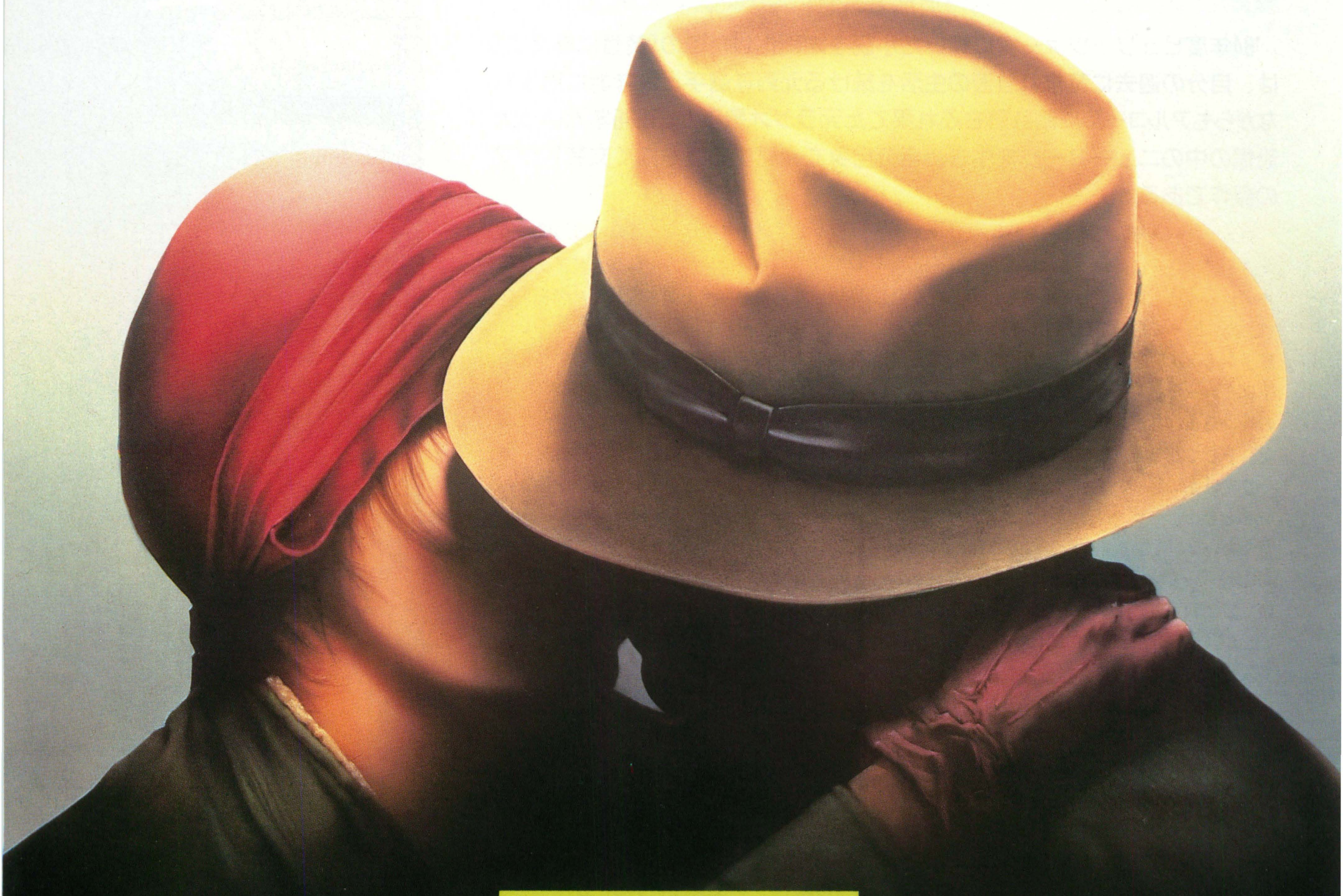
良いときも、悪いときも、ヘレンとフランシス。



ジャック・ニコルソン

メリル・ストリープ

ヘクトール・バベンコ監督作品

黄昏に燃えて

ピュリッツァー賞受賞の原作を
アカデミー賞トリオで映画化した
本年度最高の文芸作品

DOLBY STEREO

IRON WEED

トム・ウェイツ
マイケル・オキーフ
フレッド・グワイン
ダイアン・ヴェノーラ
マーガレット・ホイットン

製作＝キース・バリッシュ
＝マーシャ・ナサティア
脚本・原作＝ウィリアム・ケネディ
原作／早川書房刊
撮影＝ラウロ・エスコレル
音楽＝ジョン・モリス
美術＝ロバート・ゲラ
日本ヘラルド映画
Herald

黄昏に燃えて

IRONWEED

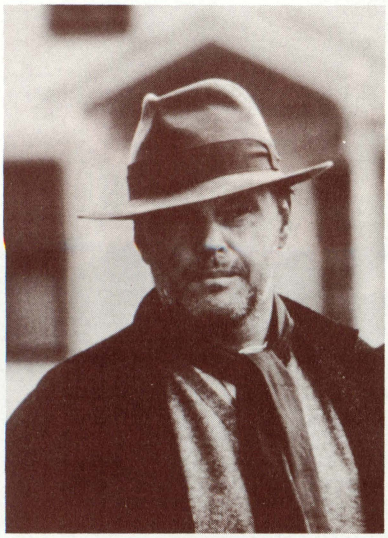
'84年度ピュリッツァー賞に輝いた小説を映画化したこの「黄昏に燃えて」は、自分の過去に苛まれ放浪の生活を続ける元野球選手と、才能に恵まれながらもアルコールに溺れ落ちぶれ果てた元ラジオ歌手が、1938年という大恐慌の中のニューヨークを生き、自分自身を発見する迄を描く文芸ドラマの傑作である。

ニューヨーク州の州都オールバニー。フランシス・フュランは、かってはワシントン・セネタースの名三塁手として鳴らした男。ある日、酒に酔って抱いていた生後13日の自分の息子ジェラルドを床に落とした時から彼の人生は変わった。あまりにも悲惨なジェラルドの死に苛まれて、フランシスは家を捨てたのだ。そして22年後、最早彼は宿なしの放浪者。その彼が遂にオールバニーに帰って来た。ヘレンとともに。ヘレンは、フランシスと互いに寄り添いながら生きてきた妻以上の存在の女。同じオールバニー育ちの彼女は、一時はラジオのピアノ歌手として華やかなスターの座にもいたが、いつの間にか酒に溺れ身を落とした。

故郷に戻った２人は、自分たちが捨てたはずなのに捨てきれなかった過去と対面することで、自分たちの人生が何であったのかを知る。フランシスは、置き去りにした妻と家族を訪ねることによって。ヘレンは、忘れたはずのピアノをもう一度弾くことによって。まるで死の前の瞬間を燃やし尽くすかのように…

フランシスを演ずるのは、「カッコーの巣の上で」でアカデミー主演男優賞、「愛と追憶の日々」で同助演男優賞に輝くジャック・ニコルソン。この当代アメリカきっての男優をうけて立つヘレン役には、やはり「ソフィーの選択」でアカデミー主演女優賞、「クレイマー、クレイマー」で同助演女優賞を獲得した実力No.1女優メリル・ストリープという見事な顔合わせ。フランシスの仲間役で「ダウン・バイ・ロー」で人気のトム・ウェイツが出演しているのも面白い。監督には「蜘蛛女のキス」で世界中に一大センセーションを捲き起こしたヘクトール・バベンコが当っている。「常に社会をはみ出してしまった人々に興味と愛情を抱く」と語る彼は、放浪者たちの世界を淡々と描きあげたこの一大叙事詩に惚れに惚れ込んで、既に他の監督で決まりかけていたこの小説の映画化権を原作者に直接かけあって何とか手に入れたといういきさつがある。監督バベンコの押しに負けた原作者はウィリアム・ケネディー。ノーベル文学賞作家ソール・ベローに師事したケネディーは、ニューヨーク州の州都オールバニーにこだわり続けオールバニーを舞台にした三部作を発表している。「黄昏に燃えて」はその中の一作である。

尚、ジャック・ニコルソンは本作品で、本年度ニューヨーク批評家協会賞最優秀男優賞を獲得している。



全米マスコミ絶賛の渦

素晴らしい忘れがたい映画。
ピーター・トラバス（ピープル誌）

「黄昏に燃えて」は強い映画だ。
デビッド・アンセン（ニューズウィーク誌）

「黄昏に燃えて」は本年度最高の一本。
ブルース・ウィリアムソン（プレイボーイ誌）

見終わった後の感動は今も続いている。
レックス・リード（作家）

ニコルソンとストリープの演技の何と素晴らしいことか！
ゲーリー・フランクリン（ABCテレビ）

誠実で、真実で、豊潤な映画。
ジョン・リチャードソン（ロサンゼルス・デイリーニュース）

次回ロードショー！

前売鑑賞券（一般￥1,200・学生￥1,100）
ペアチケット（お二人様で￥2,200）
好評発売中！

伊勢丹前・シネタウン
新宿文化シネマ2 03(354)2098